

第6回定例研究会

カステラー時間をこえた技の縁

第6回定例研究会は、松翁軒（しょうおうけん）の山口喜三先生をお招きし、「カステラー時間をこえた技の縁」というテーマで講演いただきました。

【講師プロフィール】

1962年長崎県生まれ。

立教大学経済学部卒業後、東京と千葉で5年間の菓子職人修業の後、1991年から実家である松翁軒本店に勤務し、カステラ製造に携わる。

1994年スペイン・マドリッドの菓子店「オルノ・サン・オノフレ」にて、長崎カステラの製法を公開、伝授し、約420年ぶりにカステラの里帰りを果たす。

1996年には「カステラを焼けるようになりたい」というポルトガルの菓子職人を受け入れ、その指導を担当する。戦前に店頭から姿を消していた五三焼カステラを約5年かけて研究開発し、2007年に復活させる。

2009年に社長就任、11代目当主となる。

講師

山口 喜三 氏（松翁軒第11代目当主社長）

テーマ

カステラー時間をこえた技の縁

講演日

2012年3月17日（土） 14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

